

スキー教室に行きました

一月十八日の午前中、四年生は三年生といっしょに大茅スキー場へ練習に行ってきました。その時の感想を聞いてみました。

★小椋さんに「ひざを曲げた方がいいで。」と教えていただいたいうまくできるようになりました。

(浩志)

★Bチームにしていたけど、当日はAチームに上がれてうれしかったです。リフトからは、見わたすかぎり銀世界でした。

(響)

★わたしがころんでいたとき、てっちゃんがつっこんできました。ころんだときはいたかったです。

(愛)

★左右交互に内エッジを立ててすべるのがむずかしかったです。新雪をあっせつしていたので、すべりにくかったです。

(正樹)



★「一生けん命付いていく」というのが目標でした。ころんだりしたけど、がんばってできました。

(真優美)

★急な坂の所で「ひざを前に。」と言われてやってみたらころばなかったけど、油断するところんでしまいました。

(愛華)

★スピード加減や止まることができるようになったと思ったけど、人につっこんでしまいました。

(輝幸)

★横すべりができるようになりました。コースはすべりにくかったけど、真ん中が一番行きやすかったです。

(涼一)

★はしのコースは、ガタガタで大へんだったけど、止まる所でちゃんと止まれるようになってうれしかったです。

(那津実)

大原高校だより

感謝を含めたクリスマスプレゼント

平成16年12月24日。終業式を終えたばかりの生徒が「やすらぎ荘」を訪ねた。3年生岡本亜由美さん・柴田佳奈さん、2年生井上由季那さん・岩崎由香さん・小淵由衣さん・福島舞さん・宮崎友美さん。引率教員西川先生と福田先生。生徒7名と教員2名。

「やすらぎ荘」には、大原高校は大変お世話になっている。学校設定科目「老人介護」の実習に、年8回。「社会福祉基礎」の講義の講師に寮母さん。学校では学ぶことのできない多くのことを体験し、将来の糧にしています。当然、「やすらぎ荘」には多大な迷惑をおかけしているとは思いますが、毎年笑顔で対応していただいております。

感謝の気持ちを込めてクリスマスプレゼントを贈りたい生徒の申し出があり、クリスマスイブの訪問となりました。プレゼントは、折り紙で作った小箱の中に、マスコットとオリジナルメッセージカードを入れた素朴な物。しかし、生徒が丹精を込めて作ったプレゼント。私から見ても感謝の気持ちが溢れていた。

直接、ご老人に手渡したいと、7人の生徒の訪問。喜んでいただく笑顔に、生徒もまたまた感謝。多くの人々との触れ合いでしか、若者の心の成長は無い。

プレゼントの作成・訪問を通じて、社会参画の意識は高まった。生徒の感想文の一部を紹介します。

岡本亜由美さん。
「介護実習は緊張と不安で一杯でしたが、実習を通じて、多くのことを学んだ。今回のプレゼントを泣き出しそうなほど喜んでもらえ、私もうれしさで一杯になった。」

岩崎由香さん。

「先輩達のお年寄りとのコミュニケーションの取り方に感心した。将来は介護福祉士になりたいと思っており、今後も多くのことを学びたい。」

〃

福島舞さん。

「プレゼントをおじいさん・おばあさんは心より喜んでくれました。社会福祉基礎の授業を選択してよかった。あまりに皆さんが喜んでくれたので、私の祖父や祖母にもプレゼントしたいと思います。」

福島さんが、家でプレゼントしたかどうかは、分かりませんが、そんな気持ちになってくれたことはこの行事も大成功。ボランティアは参加した者の心を優しくする。

また、12月19日(日)には、「愛夢皆の会」のクリスマス会にも2年生福島舞さんと井上由季那さんが参加。12月21日(水)にも、「大原町青少年健全育成協議会」主催クリスマス映画に軽音楽部5名が参加。クリスマスソングを演奏後、全員がサンタクロースに扮し、用意されたプレゼントを笑顔の子供達に贈った。家庭と学校の往復に陥りがちな生徒が、地域の様々な場所で多くの人と触れ合う機会がボランティア。アルバイトも勉強になろうが、無償だから、自主的だから得るものは多いかもしれない。平成16年度の年末も、地域の人々から大原高校の生徒は多くのものを学び成長したと思います。

(副校長 上原正之 1月6日記)